

バレエ実践における複数の身体「イメージ」 —タイにおけるクラシックバレエ団の事例から—

出田 恵史（東京大学大学院総合文化研究科博士課程）

クラシックバレエは5つのポジションを基本に、身体動作が厳密にコード化されたダンスである。厳密に規律化されたダンスであるクラシックバレエでは、ダンサーはクラシックバレエを踊ることを可能にする身体を維持・向上するために、日常的実践として日々の厳しいトレーニングが欠かせない。さもなければ、ダンサーはバレエを踊る身体の向上はおろかバレエを踊る身体を維持することすら難しくなるのである。

タイにおいて、クラシックバレエは、20世紀半前半に西洋より受容されたが、当初は王宮などで教えられごく限られた人々だけが実践できるものであった。しかし、20世紀中頃にかけてタイからイギリスへ数人のダンサーがバレエ留学をして帰国して以降は徐々に一般の人々にも広まっていき、ヨーロッパやアメリカのバレエ団で国際的に活躍するタイ人ダンサーも輩出されている。今日タイでは学校教育においてもクラシックバレエが導入され、より多くのタイ人がバレエを知り、経験できるようになっている。また、学校教育の外でも、バンコクなどの都市部ではクラシックバレエを教えるスタジオや教室が増えており、バレエに対する綺麗なイメージや、身体の美しさ、健康に対する意識の高まりなどからバレエが人々の習い事として人気を得てきている。バンコクにはタイで唯一のプロのバレエ団が存在しており、海外の有名なバレエ団からゲストダンサーを招き、積極的にタイ国内外で公演活動を行っている。

ダンサーの日常実践は、バレエ団の一員であることを特徴づける「カンパニークラス」と呼ばれるバレエ団での日々の練習のなかで行われる。「カンパニークラス」は、90分間にバーを使って行うバーレッスン（移動式・固定式のバーを用いて基本の確認的要素で移動を伴わずその場で行う静的な動作を行う）とセンターレッスン（バーを一切用いず、スタジオ内全体を使って移動や回転・跳躍をともなう動的な動きを行う）から成り、バレエ教師によって教えられるが、バレエ教師は実演・言葉による教示・身体に直接触れるといった様々な方法を組み合わせて教えている。それらの中心にあるのは、ダンサーに対する身体「イメージ」の想起とそれによる身体動作の創発である。

本発表は、クラシックバレエのトレーニングにおける身体「イメージ」に着目し、複数の身体「イメージ」が力学的な場としての身体にどのように現出するのかを、カンパニークラスにおけるダンサーの日常実践の分析を通じて明らかにするものである。